

博士論文の審査結果の要旨

専攻	医学	分野	社会医学研究
学籍番号	19M3008	院生氏名	土屋 明大
通学キャンパス	東京赤坂キャンパス		
論文題目	Associations between Depressive Symptoms, Work Environment, and Lifestyle in <40-year-old Male Orthopedic Physicians in Japan (邦題:日本における 40 歳未満男性整形外科勤務医を対象としたうつ症状と労働環境・生活習慣との関連)		
審査結果 (枠で囲む)	合格		不合格
<p><審査結果の要旨></p> <p>1. 主論文の概要と評価</p> <p>目的：本研究は 20, 30 歳代の男性整形外科勤務医を対象にしてアンケート調査をし、うつ症状と労働環境・生活習慣との関連を明らかにした。方法：国内在住の日本整形外科学会正会員 25, 139 名に対してアンケート調査を依頼し、無記名で回答を得た。質問内容は、主に勤務する医療機関における一週間の総労働時間、一ヶ月間の夜間当直回数、一ヶ月間のオンコール回数、等である。アウトカムとして精神状態を評価する簡易抑うつ症状尺度（以下 QIDS：Quick Inventory of Depressive Symptomatology）の質問を含めた。QIDS は正常（0～5 点）、軽度（6～10 点）、中等度（11～15 点）、重度（16～20 点）、きわめて重度（21～27 点）を用い、うつ症状の有所見は QIDS Score11 点以上と定義した。解析方法として、設問ごとに単純集計（単解析）を実施した。続いて属性とうつ症状とのクロス集計を実施し、単回帰分析とロジスティック回帰分析を行った。結果：解析対象者 1, 343 名中、一週間の総労働時間は、60～69 時間が 26.1%と最も多く、100 時間以上は 10.6%だった。一ヶ月間の夜間当直回数は月 5 回以上が 15.0%だった。アウトカムであるうつ症状の有所見率は 6.6%であった。一週間の総労働時間は、80 時間以上でうつ症状と有意な関連があった。結論：若手整形外科男性医師における過重労働とメンタル不調との関連が示唆された。</p> <p>論文の評価：本研究方法は、アンケート調査票として適切であると考えられた。倫理的配慮については、国際医療福祉大学倫理審査委員会と、日本整形外科学会が設置する倫理審査委員会において審査を受け、承認を得ている。本研究の新規性としては、整形外科医の労働時間、当直回数、オンコール回数と多面的に労働負荷を評価しており、オリジナリティが十分にあると考えた。</p> <p>2. 審査経過について</p> <p>特記事項はなし。博士課程の審査会が 2022 年 12 月 6 日に開催され、博士課程の全体発表会での本研究の発表内容の確認、審査会用に提出された書類の事前審査を経て、当日に口頭試問がなされた。</p> <p>3. 口頭試問の結果</p> <p>口頭試問においては、主査ならびに 2 人の副査の質問に対し、該当大学院生は適切に応答し、十分な学識を有することが確認された。</p> <p>4. 合否判定</p> <p>以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文が上記専攻分野における博士（医学）の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>			
論文審査担当者	<p>主 査 中尾 陸宏</p> <p>副 査 石川 ベンジャミン 光一</p> <p>副 査 石井 賢</p>		